
白夜叉とボク

KINOKO

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白夜叉とボク

【Nコード】

N7891Y

【作者名】

KINOKO

【あらすじ】

銀髪の女子高生『咲野百紋』と普通の男子高生『松岡優作』。2人は付き合っているのだが、それは表向きであり、裏では依頼者の依頼に応え、裏仕事をしているのだった…。

白夜叉とボク（前書き）

寝てた時に夢に銀髪の少女が出てきたので書きました。

白夜叉とボク

「百紋！どこにいるんだよ…。百紋。」

僕はある人を探している。裏庭かな…。

「ふあゝ。眠い…。」

私は裏庭の木の木陰で寝そべっている。どうせあいつが来るだろうけど…。

「百紋！」

来た…。この男は『優作』。どこにでも居そうな高校生の青年。私も高校生だけどな…。

「何よ…。」

「何よじゃねえよ！」

裏庭。やっぱり百紋は寝そべっていた。

「百紋！」

「うるさいわね。優作。」

百紋。僕の彼女なんだ。銀色の髪をしている事から「白夜叉」と陰

口を叩かれ、イジメられていた。でも僕は銀色の髪にキレイな百紋に一目惚れし、その日に僕は百紋に告白し、僕達は付き合い始めた。

「百紋。仕事だよ。」

「はいはい…。」

百紋は面倒くさそうに木陰から立ち上がり、スカートの裾は直し、

「優作！」

百紋は僕の腕にしがみつき、僕達は校舎に戻った。

放課後。生徒会室。生徒会長は僕。百紋は生徒会ではない。

「それで？依頼というのは…。」

今、僕と向かい合って座っているのは『真央』という女子生徒。データによると…中学までがり勉強だったけど、高校生になってからは美貌に磨きをかけているらしい。まあ…僕は百紋がいいけど。

「私…ストーカーに盗撮されて…脅されているんです…。」

真央さんは深刻な顔をし、百紋は漫画を読みながら

「顔は知らないのね。ネットか何か？」

「はっ…はい！」

真央さんは百紋の銀髪に驚きながら答えた。

「わかりました。何とかしましょう!」

「お願いします。」

「まったく…優作は本当にお人好しね…。女の頼みに弱いんだから…。」

「百紋?」

私はため息をつき、

「優作…。あんたどこまでお人好しなワケ?優作一人でやんなさいよ!」

「百紋…。またお願いしますよ。」

「面倒くさ…。」

「なんであんな女なんか…。優作が浮気でもすんじゃないかって心配になるわ…。」

「俺一人でやるよ!わかったよ!百紋に俺の良さをみせてやる!」

「あのね…。」

「優作は一人飛び出してしまった。仕方ないわね…。優作一人じゃ本当に頼りない彼氏なんよね…。そんな優作の彼女になったのは私なんだけど…。」

「待ちなさいよ優作！」

「俺一人でやる！」

「私もやるわよ！あんた一人じゃ頼りにならないから。」

「頼む！百紋。」

「調子に乗るんじゃないわよ。」

私達は真央のストーカーを探す事にした。優作しか知らないのよね。
裏の私。

白夜叉とボク（後書き）

登場人物

咲野百紋さきのびやくもん（イメージ声：豊口めぐみ）

17歳。銀色の髪をした女子高生。昔も今も銀髪から「白夜叉」と陰口を叩かれイジメられている事がある。ある日、優作から一目惚れされ、その日に告白され、交際している。普段は面倒くさがり屋ではあるが、嫉妬深く、女性らしい一面がある。父親はCIAで母親は刑事であり、幼い頃から格闘技を教え込まれていたため裏仕事のエリートである。

松岡優作まじおかゆうさく（声：新垣樽助）

17歳。普通の高校生。頭が良く、生徒会長をしている。ある日、銀髪でキレイな百紋に一目惚れし、その日に告白をした事で交際している。百紋曰わく「女性に甘い」らしい。実は日本有数の『松岡財閥』の御曹司であり、格闘技をやっている百紋とは反対に喧嘩に滅法弱いため裏仕事ではパソコンやピッキングなどを使った頭脳と器用さを武器にしている。

副島先生そえしま（イメージ声：石塚運昇）

45歳。百紋と優作の心理学の担任教師。百紋と優作の正体を知っている数少ない人物である。表向きは優しく誰からも慕われている教師だが、裏では百紋と優作と連絡を取り合ったりとアシストをしている。また、百紋に負けないほどの格闘技にも長けている。趣味は釣りで学校でもどこでも釣り用のベストを愛用し、着ている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7891y/>

白夜叉とボク

2011年11月23日15時46分発行